



組  
州湯嶋道中獨行

ル 4
4886



ル 4  
4836

温泉の湯

入おの

種れ

法病

い

はる

奇

三月の入湯

写

新

片

七

但州湯嶋道中獨案

目録



温泉効能

地形大之

温泉の湯

の辨

一系大坂

後

一系大坂

一系大坂

一系大坂

一系大坂

37-25674

目安の合紋

▲宿次立場中

但し高きと云ふは高きなり。此等  
高きと云ふは高きなり。此等

○街及船の山川村里者

社名所亦ふきり

●街及船の又中ふか

又た街及船の又中ふか

山川村里者社名所亦ふきり

ふきりふきり。是と云ふは

▲分ま乃の市

但し分ま乃の市は山川村里者社  
名所亦ふきり。是と云ふは

●市よまざれ  
ざるためなり

但州城崎浴湯辨

田原

○四禁

一 飲湯す海もきき

湯は入やうより

人一日も二三度

人四五度と愛む

をよくばりて是か

多く入ると飲湯と

一 中江湯に入まき

い湯子細かき人

きぬちり

一色強情はさく夏

一保長破海はさく夏

ふ持身はあつひ合お

のあつひ酒合は情風む

かざ。冷入やうの風む

をいふ。下はくま

右四禁とん古某あふの

湯は入てあつひはさく夏

身を失ふ人多きは。此

四禁はさくまはるさく夏

て思ふ。経は。湯治は。経人を

する人。此書を熟讀し

て。四禁の理を明白なるべし。

而後教はす。べきありや

○地取は。大賣

温泉は。石炭湯治といひて。

但る。此國。城傍。あり。なるべし

筋あり

播磨城 大坂より湯治まで  
六十二里半余

三田城 大坂より湯治まで  
九里六丁余

福智山城 大坂より湯治まで  
廿五里半丁余

右の道の道も。冬。岡と云

ふ。よ。豊岡。今。三里川。舟下り。

土地令僻<sup>ちとせんと</sup>此<sup>た</sup>の各<sup>た</sup>方<sup>ま</sup>あり。一  
筋<sup>しん</sup>の町<sup>ちやう</sup>長<sup>なが</sup>く二<sup>に</sup>つ<sup>つ</sup>ま<sup>ま</sup>き<sup>き</sup>れ<sup>れ</sup>て中<sup>ちゆう</sup>  
に野<sup>の</sup>を<sup>を</sup>つ<sup>つ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>。水<sup>みづ</sup>一<sup>いち</sup>里<sup>り</sup>も  
あま<sup>あま</sup>い<sup>い</sup>水<sup>みづ</sup>海<sup>うみ</sup>ち<sup>ち</sup>り<sup>り</sup>。さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>。  
氣<sup>き</sup>は<sup>は</sup>よく<sup>よく</sup>。西<sup>にし</sup>志<sup>し</sup>が<sup>が</sup>。道<sup>みち</sup>中<sup>ちゆう</sup>  
ふ<sup>ふ</sup>川<sup>がわ</sup>の<sup>の</sup>水<sup>みづ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>れ<sup>れ</sup>ば<sup>ば</sup>春<sup>はる</sup>の<sup>の</sup>水<sup>みづ</sup>  
は<sup>は</sup>如<sup>ごと</sup>く<sup>く</sup>結<sup>むす</sup>ば<sup>ば</sup>氷<sup>こほり</sup>の<sup>の</sup>如<sup>ごと</sup>く<sup>く</sup>。  
陸<sup>りく</sup>家<sup>け</sup>は<sup>は</sup>ま<sup>ま</sup>き<sup>き</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>考<sup>かん</sup>て<sup>て</sup>勿<sup>な</sup>。  
づ<sup>づ</sup>ち<sup>ち</sup>ち<sup>ち</sup>り<sup>り</sup>

○温泉繁昌<sup>せんせん</sup>の由来<sup>ゆらい</sup>

温泉<sup>せんぜん</sup>教<sup>きやう</sup>合<sup>がふ</sup>五<sup>ご</sup>ヶ<sup>ヶ</sup>有<sup>あ</sup>。中<sup>ちゆう</sup>の<sup>の</sup>所<sup>しよ</sup>に  
は<sup>は</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>水<sup>みづ</sup>の<sup>の</sup>湯<sup>ゆ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。改<sup>か</sup>と<sup>と</sup>中<sup>ちゆう</sup>

の湯<sup>ゆ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。今<sup>いま</sup>は<sup>は</sup>改<sup>か</sup>と<sup>と</sup>中<sup>ちゆう</sup>

といふ。又<sup>また</sup>これ町<sup>ちやう</sup>古<sup>こ</sup>例<sup>れい</sup>あり。成<sup>なり</sup>

は<sup>は</sup>不<sup>ふ</sup>れ<sup>れ</sup>湯<sup>ゆ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。た<sup>た</sup>ま<sup>ま</sup>ふ<sup>ふ</sup>い<sup>い</sup>と

者<sup>もの</sup>代<sup>しろ</sup>。ゆ<sup>ゆ</sup>ん<sup>ん</sup>だ<sup>だ</sup>湯<sup>ゆ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。都<sup>つ</sup>

合<sup>あ</sup>み<sup>み</sup>ち<sup>ち</sup>ち<sup>ち</sup>り<sup>り</sup>。今<sup>いま</sup>は<sup>は</sup>陣<sup>じん</sup>や<sup>や</sup>れ<sup>れ</sup>湯<sup>ゆ</sup>と

て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>人<sup>ひと</sup>の<sup>の</sup>入<sup>い</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。た<sup>た</sup>ま<sup>ま</sup>ふ<sup>ふ</sup>い<sup>い</sup>と

り<sup>り</sup>は<sup>は</sup>又<sup>また</sup>非<sup>ひ</sup>人<sup>ひと</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。古<sup>こ</sup>来<sup>らい</sup>

高<sup>たか</sup>木<sup>き</sup>の<sup>の</sup>湯<sup>ゆ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。古<sup>こ</sup>来<sup>らい</sup>

人<sup>ひと</sup>者<sup>もの</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。古<sup>こ</sup>来<sup>らい</sup>

割<sup>わり</sup>良<sup>ら</sup>湯<sup>ゆ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>じ<sup>じ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。

思<sup>おも</sup>は<sup>は</sup>押<sup>お</sup>包<sup>ほ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。湯<sup>ゆ</sup>ち<sup>ち</sup>り<sup>り</sup>

と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>標<sup>せう</sup>員<sup>ぎん</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。古<sup>こ</sup>来<sup>らい</sup>

結<sup>むす</sup>ん<sup>ん</sup>元<sup>げん</sup>祿<sup>ろく</sup>の<sup>の</sup>比<sup>ひ</sup>京<sup>きやう</sup>教<sup>きやう</sup>良<sup>ら</sup>山<sup>さん</sup>

後藤氏此所み来り。其  
くく試と涼く考て。あ  
ゆい云双の湯るうとそ  
中の湯の押包湯なり。法  
して用也。むかす。と定  
其嗣法也。  
門人秀菴氏。其の能  
る書に述くは。まひうら  
辨せしむたり。さる程み。  
世間其奇功あるを知りて。  
をきけらむ。ば。陰を  
たぐ。こもつて。ゆるむと。

かりぬ。入也と。幕湯と。目  
か。ら。に。互ら。が。ひ。に。入。り。  
目。ら。る。と。い。幕。を。い。ち。中。の  
あ。ん。ど。よ。灯。を。と。が。し。男  
女。や。左。右。よ。か。け。湯。女。是  
を。制。して。か。し。は。し。大。体  
湯。此。功。能。結。締。筋。骨。の。間  
の。滞。り。を。通。じ。大。体。を。温  
め。る。血。を。巡。ら。せ。る。胎  
毒。癩。毒。を。ど。い。自。然。に。其  
毒。退。出。し。癩。を。生。じ。癩  
血。切。癩。な。ど。い。其。不。う。と。は

以て後愈。あつて一日難  
 儀をらすとあれど是れ  
 ため巡らすやふかれんが。  
 終る病の根を抜く。吉相  
 たりと合点さるる。その  
 諸神を奉へるを去る。其  
 又たひ。漸く免がうて中  
 其毒氣出るぬむ。其種  
 相其病自癒よめると志  
 るる。

○温泉の次

○新湯一の湯

香川先生。薬選よめ。  
 他品城崎新湯の宮上玉  
 極天下第一の温泉と  
 云て。

○二の湯

其源新湯あり。功徳  
 同。

○三の湯

其源三の湯よる。

○藤湯

茶選よいく。瘵湯を  
瘵と云く。け湯外患をり  
己の病人の共功ををや  
有り。えくれも。あけ心  
痛有く人の毒を退也  
系水引水を色あらず  
事なり。

○常湯 上湯よ云

け湯新湯よく好むが  
たひよれとむりといへ  
たり。

○沸水湯

従昔御不よう。貴人方。  
け入湯有くまも。記録  
のせたり。よめてけ御所  
れ名くもあつたんれ。  
きんけく。懸留したると  
えりたり。

○薬湯

け湯の用は道智上人  
曼陀羅を掛り法。  
けり玉ひも。まんたら  
の名あり。温泉のけが  
りて。夏湯なり。



①あゝ湯と中の湯と此功  
あゝ湯と中の湯と此功  
 体黑白明白なるも。あみ  
あみ  
 薬があし。あつれども。一  
あつれども  
 病も。人多うとせ。是れ  
是れ  
 によろ。服をたき。しに達  
しに達  
 せり。いりて。室を招く。人世

には。二人此理を教ぬ。ま  
二人此理を教ぬ  
 或は中れ湯を採。其とす。ま  
或は中れ湯を採  
 も有。病にま。中れ湯と。あ  
病にま  
 りと分て。指圖するもあり。秘  
指圖するもあり  
 何ゆふへ。其也を。進出後  
其也を  
 中乃湯と入て。るに。一と云  
中乃湯と入て  
 有。何れも。根。うら。あひ。とく。  
有。何れも  
 陰。る。も。と。瘡。毒。殺。して。た  
陰。る。も。と  
 へ。か。した。事。あ。つ。た。湯。体。て  
へ。か。した。事  
 々。一。戯。も。中。の。湯。と。い。へ。ん。  
々。一。戯。も  
 け。あ。は。不。辨。して。但。る。湯。体。と。を  
け。あ。は。不。辨  
 せ。ん。大。なる。い。が。あ。あ。べ  
せ。ん。大。なる



○温泉功能

骨痛 下痢 便毒

雁来瘡 痲病 痔類

諸惡瘡

右の如きも功あり。但瘡毒と

いふは。大かき金でもあつたべ

いふは。又敷す。敷すも必

いふは。重し。故より。必

いふは。此湯に入て。楊梅瘡や。干

いふは。此湯に入て。楊梅瘡や。干

いふは。此湯に入て。楊梅瘡や。干

いふは。此湯に入て。楊梅瘡や。干

いふは。此湯に入て。楊梅瘡や。干

いふは。此湯に入て。楊梅瘡や。干

いふは。此湯に入て。楊梅瘡や。干

いふは。此湯に入て。楊梅瘡や。干

いふは。此湯に入て。楊梅瘡や。干

いふは。此湯に入て。楊梅瘡や。干

いふは。此湯に入て。楊梅瘡や。干

いふは。此湯に入て。楊梅瘡や。干

いふは。此湯に入て。楊梅瘡や。干

いふは。此湯に入て。楊梅瘡や。干

いふは。此湯に入て。楊梅瘡や。干

いふは。此湯に入て。楊梅瘡や。干

いふは。此湯に入て。楊梅瘡や。干

あつてはさする病。痼疾と成て  
多之く。針灸薬餌の功を  
き。病を治す。氣血和し。  
積る病。氣を治す。  
的白なる。道理なり。各之  
ざる。医人も多し。可也。  
婦人の經痛。帯下を治す。よ  
はてふ。これ女。湯治の後。後  
妊す。多し。按列方多。  
作。湯。煎。に。龍。神。号。乃。  
湯也。お。應。又。功。あ。れ。也。此。湯  
に。及。び。唯。此。檢。湯。泉。日本  
至。上。至。極。と。ん

○湯治法

先湯ゆひに降て。其板同と。  
湯めて。温め。去塵して。い。や  
を。の。り。く。湯。を。汲。く。兩。肩。腋  
背。灸。灸。け。て。板。敷。洗。い。  
る。も。氣。を。ゆ。め。ふ。す。る。也。  
小。思。水。あ。と。び。す。る。ぬ。く。と  
後。湯。中。に。は。り。り。体。を。あ。る  
り。より。又。奉。け。下。す。安。坐。し。湯  
を。の。り。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。  
湯。中。に。は。り。り。二。度。と。て

す。只氣根を熱く入る。  
あり桶おけ 富とみありのくべー一名湯  
筒つつ 是こゝ湯ゆを浴よくく人ひとは  
揚あこ也。然しかれおくして思おもふ不ふ可か  
は。長なが岐ぎくして功こう多たく。但た積じれ  
有人ひとは背せ乃の十二じふに三四さんじゆのあり  
より下したとてさしてそねらうと  
と。腋わきと皮かわをなす事ことわめは。積じ  
氣き動どうでんを思おもくわたり。石いし弱じやく  
き痛いた人ひとはつらう男おとこのべのん。  
形かたちで能よく温ぬるて後のち初はじて湯ゆ中なかみ  
つありざりてさるべし。水みづ此こゝ

す。まののりて汗あせ蒸むすこと。  
去いくも下したに温ぬるまて。さびれ  
す。空そらをい入いるのん。必かならず湯ゆ浸ひ  
めも今いま入いる。目め外ほかき  
人ひと洗あて毒どくをぬきま功こうあり  
る人ひと眼まなこ目め入いる痛いたる有あ  
用もち捨する也なり。在ある目め長なが湯ゆを浴よくは  
やもさへ目めまる有あ戲たのしみさる  
のん。酒さけを力ちからあり入いるのん  
す。のぼりて悪わるく。毒どく瘡かさを  
浴よくのぼす。腋わきを浴よくす。但た  
毒どくをあり入いて。水みづ分ぶん無な用もちん。

陰分を滋養に持し氣を對

処し。さしほし。さるる。さるる。日

日ありき。さるる。若眠人多

か。て。たま。く。昼。寐。せ。ば。

能。お。を。若。て。安。風。や。ど。り

也。一。移。る。べ。し。湯。治。地。乃。也。

表。氣。ひ。き。風。ひ。た。や。す。け

ま。ば。や。り。浴。衣。若。や。か。り。

お。移。り。や。ど。す。べ。か。り。は。酒

を。さ。し。ほ。し。さ。る。る。さ。る。る。の

人。二。日。に。二。三。度。收。は。け。人

四。又。夜。ふ。さ。べ。く。は。湯。敷。と

の。入。て。功。有。る。も。の。ふ。あ。り。は。

只。日。敷。を。入。る。べ。し。大。く。こ。乃

人。二。日。に。二。三。度。收。は。け。人

長。し。と。さ。る。る。怪。れ。病。の。さ。も

あ。る。べ。し。と。さ。る。る。湯。治。と。る

人。多。く。は。さ。る。る。の。病。疾。な

ま。だ。い。そ。速。功。な。べ。し。と。さ。る。る

四十日。より。さ。る。る。年。一。の。何

分。其。病。愈。る。候。期。と。す。べ

し。志。は。堅。決。ま。ち。り。人。に

さ。げ。り。入。て。あ。る。べ。し。と。さ。る。る

あ。る。べ。し。日。に。さ。る。る。と。さ。る。る

既痛病と云。又八日迄の再つ

ぶるもどめ。されば戒て飲

湯すべからず。是四禁れ二

あり

入湯と二三日後胸後

すれ。食すむい湯お熱乃

ち予之不お應る。此ハ必不

食す。但其時二三日休む

再入てしむもあり。よんれ必

食すむ。續て入べ。どめ

多飲れ如く不食た。は

入るの。病治されむ

らず。書あり

四又日の後。二日よと三夜。七

八夜。腹より。或ハ腰より。振

り。大便甚く。なす有。

是湯お應れ。ち。あり。

書して。茶用むべ。あり。其

は。湯に入。む。自然止

む。但。諸人。皆。物。な。あ。り

す。大便。秘。す。む。い。大。の。功

少。し。又。食。す。む。み。小。便。濁。り。

食。事。に。合。む。と。大。便。少。さ

や。う。と。是。も。あ。り。又。お。熱。れ。一

種あり

湯治の後入湯の日較程

乃の湯をほふ迄の程

灸すべのすところ

あやほりあり灸治す

痛あり湯治中も灸

すべ湯よく相應す湯

の及勿漏り又度

中宿らそそあり

灸すべ

湯お熱すまは灸す

左に灸しそそ

とろ人ありよろしく酒食

すべの程灸生冷れ物

冷飯乃れいじ

いじ

みそたれ氣候不正上湯

治す汗をりし毛れ完び

けハ風寒に感下易

水腫傷定れ思あり能ん

用べい勿論あり

水氣軟ま

灸すべ

治の日較程右に灸す





吐てぬす。大に戒むべし。  
よろしく飲をのめし禁を  
し。熱体は保養を心得たり  
て又一として心より中なり

○論

ある人問ていふ。中れ湯を  
毒湯に入事やうなれり。  
然る中れ湯より毒を  
あるいふん

善くそれいふめいぬがらん  
毒湯と入がごとく硫霜石  
斑猫也たの毒よりあらん。

夫温泉は其性温にして能  
温め。氣血は巡るに上と

す。あつゆ是なり。其性冷  
き。上より包こ。愈々下

と中れ湯是なり。中乃  
湯。腫物切疔多し。人愈すふかい

て。甚重き疾なり。之れども。そ  
れ早療。外科の細工もあむ。

かのよより。ほみ閉て一ね病  
と成。或は命を危うくせん。

のめんご。たぐひ。急病の人  
とりと。氣血を巡らすこと。

よめぐらも湯入るをぬ

ほどいりや病人とわ。こら

くこに。あるん。なる。あ

病。かう。う。糸。ば。や。う。た。と。

あけ人。病人。の。あ。よ。た。と。い。と

す。先。眼。着。の。功。効。を。せ。ん。あ

を。の。ぬ。め。り。中。れ。湯。の。害

を。あ。ふ。人。ま。さ。や。あ。ん。こ

よ。め。て。中。の。湯。を。無。て。毒

湯。と。は。ま。ほ。け。く。る。人。此

湯。を。れ。を。れ。て。入。る。あ。め。り

あ。り。ん。が。あ。り。あ。り。如。此。道。理

ゆ。中。の。湯。入。て。も。害。あ。ら

ん。も。と。有。り。て。不。審。あ。ら

ず。あ。る。あ。れ。の。湯。温。を。病。て

終。ん。既。瘥。と。な。て。固。て。人。を

ざ。ん。人。あ。り。人。の。と。め。あ。ら

て。此。あ。れ。あ。り。い。が。何。と。の。湯

へ。入。て。よ。う。と。さ。さ。わ。く。と。を。よ

る。の。れ。れ。ば。あ。ら。を。指。圖。し。て。

中。の。湯。入。り。し。む。け。病。人。中。の

湯。入。り。て。二。日。ち。は。よ。う。と。氣。ふ

あ。り。て。食。を。と。め。ず。二。日。ち。か

と。氣。を。と。ち。や。と。ら。う。ゆ。湯。入。り

つづ。食ともくろがず。おめで  
 のとありすと。相宿の病倍い  
 拓子をあらみ。親切とありて。  
 同くねんり侍。志うくのよし。  
 とまーりる。成はて。倍大にお  
 ぞる。是湯けぬきひぬべし。  
 あしゆふこそ入る。なまこて。  
 自戒。誰にけ。並い。い。い。い  
 て。あしゆふ。入る。こ。せ。り。ま。じ。ば。  
 たら。ま。ら。ち。氣。色。あ。ら。う。ま。ま。て。  
 食を。み。出。着。け。受。る。心。地  
 付。既。瘥。う。と。れ。出。派。より。懸。出  
 ぶ。事。跡。の。で。く。其。ね。り。り  
 間。は。既。瘥。甲。の。で。く。す。の。り  
 と。ぬ。け。く。落。り。り。り。り。り。り。り  
 一。と。と。今。う。ら。あ。り。て。ん  
 たり。も。と。去。程。は。既。く。使。氣。と  
 ね。く。後。は。瘥。毒。の。根。を。ぬ。い  
 る。う。い。人。已。は。席。れ。尾。と。ふ  
 ころ。ころ。と。使。倍。れ。氣。は。と  
 を。り。て。好。ま。ぎ。の。命。を。な。か  
 り。ぬ。い。傍。の。恩。を。と。清。め。り  
 祥。と。厚。く。謝。して。お。ま。さ。る  
 と。ち。り。り

又あるは。二方の小児。尻瘡

甚くおて。目口ふらあり。背は

ほらむ。母のしひふらうて。母

子難養するあり。其湯の

人多く湯治りけるは。いと

此本をききまて。あはれ

は。まもる指圖。付。中。此湯を

湯。行。方。入。入。く。持。取

て。破。既。瘡。み。ひ。く。付。れ

り。二。日。れ。中。瘡。ま。さ。る。

子。母。を。怪。じ。恨。じ。は。り

不。儀。又。小。思。病。か。ら。り。金。銀

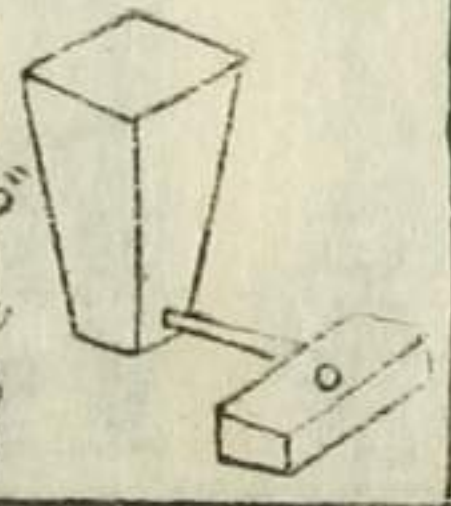
紫。又。又。成。て。死。さ。し。ま。ら。じ

さ。ぬ。く。瘡。け。れ。は。瘡

か。し。中。の。湯。に。害。め。白。ん

毒。湯。と。ま。は。づ。し。ん。や

謝温志之圖



右。左。年。紀。不。明。は。く。瘡。瘡。を

人。取。門。又。あ。て。湯。不。お。さ。る。臭

な。り。と。あ。は。人。に。様。を。看。て

借。用。由。る。一

○湯治雑話

湯治の者、多し。此、

はひて湯、行はし。但し

時、其、是、あ、り、ま、り、

は、入、る、ち、あ、ま、り、一、般、休、息

し。翌日より入て、

用意は、金、銀、服、指、其、外、

大切の、お、ち、ふ、包、名、札、を、付

て、ま、り、ま、り、お、て、よ、し、ま、り、ま、り

き、耐、ハ、用、多、ふ、ま、り、或、ハ、海、

初、ら、る、あ、ま、り、お、て、よ、し、ま、り

事、も、あ、ま、り、ま、り、

湯治、翌朝、か、自、分、世、帯、ま

ま、り、た、れ、あ、ま、り、ま、り、

自、分、世、帯、ま、り、耐、ハ、味

噌、油、ほ、お、油、け、顔、其、外、

一、切、宿、附、の、商、人、ま、り、通、し

め、て、入、る、ま、り、ま、り、

ま、り、耐、ハ、味、ま、り、調、り

け、し、宿、ま、り、足、を、た、ま、り

麻、末、は、一、け、一、茶、を、ま、り、

一日よ。二度。出たを以て  
油の客のふちを以て  
の宿より出た之は二種即  
れ時の自分。酒を宿に於て

産婦代一と。この外。  
又を及みたりた出た代。  
都合一と。四五外。湯は  
のれので。勿論自分世  
夢にす。時。産婦代。  
三々。どうり。ちう。

まく 幕湯 大幕湯切幕  
代は向あり

入也。よ。は。人行。て。た  
り。や。よ。は。ま。は。か。さ。ハ  
が。お。文。身。痛。不。あ。る。人  
ち。と。甚。難。張。ち。う。必。と。  
幕湯にす。一。幕湯よ  
す。終。湯。女。人。と。な。う。く  
入。て。其。上。と。も。せ。た。く。さ。し  
り。が。う。り。て。内。せ。し。ぎ。入。ら  
し。う。幕。湯。一。日。且。三。度。で  
湯。女。よ。び。よ。あ。る。幕。代  
一。有。あ。一。と。う。六。と。う。人。数  
の。多。う。と。う。だ。幕。湯。入

卒

ひとりの湯女支といふ人  
兼金湯即 湯女三人何  
まゝとあつとあがりといふ  
公持は身役とあがりては  
宿の亭主女房を使の下女  
下男等。その名はあがり  
といふ。公持は身役とあがり  
り銀掛合のくわい。あがり  
て配分と宿代をいひ。又  
ハ雨通用の銀札を調へ  
お銀ふ包をあがりといふ

灯の錢

一人をとりて錢だ。

湯女はあがり

掃除錢

自分とあがりては。一とり  
を間かす。またさあがり  
か。一人あがり。またさあ  
あがり。またさあがり。

やいひ人

毎日早朝か。またさあ  
さ。あがり。またさあ  
あがり。またさあ  
あがり。またさあ



食類

酒造年の上酒あり吟味

おぐー

茶たをこよろーのすお

茶とぐー

豆腐はてんがく香煎賣

に有る。こ食すものあり。

海川の魚たそん之。但味を

と伊勢はてし。志し干鰯の

名おまそよごして煮鰯之。

川のうらま魚之味も甚。

味もす。

香お甚とろーのうらま。

みしりのおお

おつけ。梅がし。昆布

おつけ。おれお梅と煮。

お油。おまおと吟味も甚。

お中りのおお。おまごしてよる

しきと有るあり

おぬぐ。ゆめ。越中ふ

じとよけのおお。てんが

お有。おれお記とつとも。

湯。お思ゆ。年々自由

お。勢わろ。万事進とふ。

個べーととるなり

かー物 本三味線

蚊帳 一斗

よだ 一斗

ぬえ 一斗

右大いさいし緒いふ巻

みやげ

柳やなぎがら 柳細工 海苔 海苔 湯花 湯花

楊枝 やなぎ ぼく ぼく 宮津 宮津 緒 緒

むぎ むぎ 細工 細工 煙 煙 者 者

○湯花 湯花 名 名 不 不 拉 拉 行 行 雨 雨 糸 糸 托 托

味勝 味勝 八系 八系 系 系 云 云

温泉 温泉 晚鐘 晚鐘

わん わん せ せ ぬ ぬ む む 泉 泉 と と 入 入 む む の の う う の の

松 松 崎 崎 晴 晴 嵐 嵐

松 松 が が さ さ ら ら ぬ ぬ 風 風 の の な な む む ぐ ぐ 七 七

小 小 浜 浜 の の な な む む 波 波 の の う う 緒 緒 く

批 批 評 評 の の な な む む 雨 雨 の の な な む む 嵐 嵐

戸 戸 崎 崎 秋 秋 月 月

と と 名 名 不 不 名 名 不 不 の の 月 月 崎 崎 雨 雨

細 細 上 上 三 三 者 者 香 香

ふ ふ り り 様 様 の の な な む む 緒 緒 い い の の な な む む 緒 緒 い い の の な な む む 緒 緒

緒 緒 巻 巻 前 前 存 存

きぬ巻にちや夜の神とてさへ多  
月にもあつる天律のうらみ  
此比文照

けいの淡とては後見まぬの  
花も志がけいりららさるる  
津山陽帆

三帆片帆風みせせて経なく  
海も付山の海のけりふ  
未代山温泉寺

本その十一面観音はさけり  
六尺余襦袢文仏師之他  
道智上人の用基湯根

熱別湯坊之毎年三月  
廿日洞山辰彼行あり  
せんが湯ハ乃智上人

加持ふたり重武部  
殿は又達一未代山温  
泉寺とみことのう有と

多香の寺は縁起有求て  
寶塔 本寺  
茶師堂 温泉寺  
の藤

鳩の湯 美解寺の東山  
より時自は湯よみ  
極楽寺 曼荼羅湯  
の西 経堂

獨結水 極楽寺の後ろ一丁  
乃智湯を新玉を指結と  
りててうらみあらりといへ

四所明神 中の所のくろまこ  
有是出る明神乃

三十五

三十五

着休之元和元年  
勅請湯治の法皇之

本住寺 田蓮宗

蓮成寺 志宗

愛宕山 けいん殿とこらう  
終末之にまて現

そ者

辨天山 活き塚の法  
の小山あり

活き清塚 活き塚の南側い  
まてね勝といふ氣は村の西白

山のもも塚有試中活き三登福  
壽水の乳といふに妻り官代判

友といふ者の種こそは系れさ  
りて感し終に我むことありて

一人は女子は坊よりいふは金  
實に遊するに承りて氣味を今と

終に其妻も氣味は塚と氣味  
其後湯治の法皇に末代はこれ

佐藤のよめといふは湯治のよめ  
佐藤のよめといふは湯治のよめ

佐藤のよめといふは湯治のよめ  
佐藤のよめといふは湯治のよめ

日たり山 活き塚の  
の小山あり

掘し波 日たり山のあり  
掘し波の社あり

烏帽子岩 日たり山  
のあり

八雲岩 けいん殿とこらう  
の小山あり

川

くさかけ山 日たり山のあり  
向はきこらうのあり

紡巻石 活き塚のあり  
まのふたは活き塚のあり

かよらら岩 いりり山  
のあり

〇活の妻とては活の妻  
といふは活の妻といふは活の妻

活の妻といふは活の妻  
活の妻といふは活の妻

田居村

高比村 ひ里にむね  
の林社あり

小一岐 い三村傍巻の赤  
水工傍く、東地之

津居山 山海の口より西  
乃小あかりを

津山

津居山 津居山の西長福  
ちと三吉有山を

建ふより一材本とて和巻と  
ふといふ山あり、睡てふ隠はる

猿が峰 ふ石黒 猿が丸

い三津居山 い三津居山の西小海の中  
ふあり風ありとて北の山なり

右鳥帽子 鳥帽子

後より 後より

又おし 又おし

ふく ふく

又おし 又おし

あま あま

あま あま

用 用

あま あま

あま あま

あま あま

あま あま

あま あま

あま あま

あま あま

あま あま

高比村 ひ里にむね  
の林社あり

小一岐 い三村傍巻の赤  
水工傍く、東地之

津居山 山海の口より西  
乃小あかりを

津山

津居山 津居山の西長福  
ちと三吉有山を

建ふより一材本とて和巻と  
ふといふ山あり、睡てふ隠はる

猿が峰 ふ石黒 猿が丸

い三津居山 い三津居山の西小海の中  
ふあり風ありとて北の山なり

右鳥帽子 鳥帽子

後より 後より

又おし 又おし

ふく ふく

又おし 又おし

あま あま

あま あま

用 用

あま あま

あま あま

あま あま

あま あま

あま あま

あま あま

あま あま

あま あま

○但列城跡那湯清

通一竹雲為也金寶

美大坂久足名

後後所梅檀木入丹波在力三

梅檀木淡路町南丹波在力三

淡路町東端入在力三

淡路町一南端河内在力三

淡路町尾町在力三

京於人足名

馬丸在根下但力三

本町院松屋下力三

東洞院又桑下力三

楚西銷業師力三

室町通松糸細入力三

室町通松糸細入力三

室町通松糸細入力三

室町通松糸細入力三

室町通松糸細入力三

陽清、四日名、九月、二月

室町通松糸細入力三

室町通松糸細入力三

室町通松糸細入力三

室町通松糸細入力三

室町通松糸細入力三

以上。十日始から事なむ。  
はまばる底へ支度し。後  
是あ。くくまうて。うむ  
湯治。宿のあて名れ。付れ。  
係状亦てなる。勿論あり。  
是入用此品。自分持来。こ  
とくいな。持来。お掛  
同五六費目。あつ。人  
之。惟て。右中小揚。あは。ど。  
時。右より。只自由。之。案内  
が。て。や。と。あ。ま。う。湯治。か  
も。同。事。あり

右に用ある人のあ。記。人  
足。備。案。内。は。人。生  
て。封。治。の上。別。文。合。け。の  
形。を。出。し。性。成。人。成。是。紙  
宜。世。話。い。は。な

○ 賃銀定

大坂。た。た。し。ま。ま。  
る。や。寒。圖。ま。せ

一通。い。か。ご

四日。美。一。丁。 甲。信。五

一 佐。藤。助。人。三

八。費。目。持。四。日。表。す。く

豊。岡。納。屋。か  
大。坂。ま。せ

一通一かど

四日辰一丁 四指四五

一依るお人足

四日辰八丁目指 六二五

京か出る豊岡

一通一かど

四日辰一丁 三指八五

一依るお人足

ハメ五指四日辰 十九五

豊岡か東と

一通一かど

四日辰一丁 四指四五

一依るお人足

ハメ五指四日辰 廿一五

出るか東と

一通一かど

四日辰一丁 四指四五

一依るお人足

ハメ五指四日辰 廿五

右のりもて 飯代雑用

りう。あ大五川ぐらんとそ

日とて付ハかど一丁あ。一日五

ま。捕止り。丹後とりて

日とて付ハ。定は新と四日の



まり合ふてまふ。人皇もて  
 も上下とも日のひかりを  
 照らし。高木掛目ハメ  
 より少い。其づんでまふ。解  
 在後年のより合てまふ。  
 今更ん。おんむづり  
 小あつてまふ。おのり  
 後年の四、別つを海とまふ  
 のち花らひさき蘇おつて不  
 自中へまふ。おのり  
 あつてまふ。おのり  
 ましてまふ。おのり

○京より湯治へ東へ中記

京大文丹波口より

丹波口  
 朱雀村 宿 六丁

上原を過りては田とあめ七

東とつりより ○檜原を

○松尾河原 ○六条判官

おんむづり

川勝寺村 宿 六丁  
 朱雀村

○はあさ川 ○あつ町

桂川 宿 八丁  
 川勝寺

おんむづりあり三太二松尾社

えゆ。向はまはあつ

い水上の狭小丹波堂於

出法臨川、落大舟、梅津と

るせの作くと、あつて、るり

りりりり

●西芳寺 ○山田村

工下二村有 ○文徳帝車塚

田村とも云 ○河内村

○二町縄子

櫻木原 桂川より  
おるよ

町をくまの、七八丁、

小坂あり

○塚原村 ○大原野

○春日社 ●持持るるの

習掛村 宿る一 四本原

○酒呑童子腰の石

▲京が終入の右の趣をば

伏之方来入の京ふ、下

倉形、向れの林、出掛掛、

及あり、新も、又大坂、

人集あつて、水登、

出るがよう、但、向れの林、

習掛、す、小松原、

くして、終り、

又、ゆるが、

ふくしあぶし。後いふ不  
定な紙があらう

○但しを巻くかごみ存人足  
伏えたのり。お射しとす。

金二人百文さしそまらる  
かいの板 常めけふ  
三十丁

け坂山城丹波のさかいりら。  
大いふとす。大いれ坂とあや

れりて。かいの板といふ。ま  
るあり。○味よ子安乃

地蔵堂あり。懐妊れ女。堂  
の柱を削て。除毒の時。に

ふくしあぶしとあとも。○

味をあ、かちりう一王塚足と

酒吞をまが首塚といふ

○王子村 舟附の地蔵堂。た  
の森。王ふ社ん

○條村 八幡の社有。その氏教  
社あり。軍兵矢を納りてを。

矢塚といふあり。社のたちり

廣乃 かいの板より  
二十下

○るほり村 ○かせ原村

龜山 ひろ乃が森といへは土  
をいこまら町は。土格が

うらひとす  
丁あり

松平紀伊守殿 五万石法  
城下あり

▲右そのべゆる。森山の川原町  
左登山貝原といふ。立石めけ



坂下川のよきとげりろくわりの河  
たの他 ○本橋村 田中村  
るたえ

○補陀落石観音堂へ  
出観音とつふ日知る之をびえ  
けいこく諸族の有り口本橋村は村之

三ヶ所跡 一リ  
ふたをめぐりてとす七面とる

○新三ヶ村 ○古三ヶ村  
頂知村 三ヶ所跡  
そり

○新三ヶ村  
新三ヶ村はもと三ヶ村を  
合して一ヶ村とす

○新三ヶ村 ○古三ヶ村  
○新三ヶ村 三ヶ所跡  
○古三ヶ村 三ヶ所跡

新田村 古三ヶ村  
新田村はもと三ヶ村を  
合して一ヶ村とす

紅新田村  
紅新田村はもと三ヶ村を  
合して一ヶ村とす

△い里とをたけの法智ふた  
史のい大原は法智の  
後知越とてとて川はたあり

後知九鬼氏  
三万石に降る  
大原はあてい梅ふた

とて川をせりまて大魚は  
月出てもたります一リは  
原社社はつとて大津宮の  
そ。大津宮はつとて大津宮

五

終下川迄して下。但及少新也。  
又丹後田邊好ま。いふ大魚のり。

○大井村 ○井尻村

出口村 桂山より 十二丁

此等と云て九丹波の甲分也。有井村等  
大井と云ては丹波の甲分也。大井と云ては

○大井村 小坂 ○坂井村

水原村 村の中経よ 出口村か  
川橋あり 走り

と大久保村。

伊太久保村 川ありて 走り  
橋あり 走り

次は谷川あり。後て二丁程た入。其の如き。  
御座り。其の如き。其の如き。其の如き。其の如き。

又その山は也。○細野村 百八十九丁より  
走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。

兔原村 中村より 走り  
走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。

上中下三村之 ○中村 下老要中老  
走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。

○やま川 下老要中老に有橋あり  
走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。

細之 一古小形 走り  
走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。

出口は洛川有。是よりより。其  
走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。

多く。とてふれ。走り。走り  
走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。

ふま村 かしこか 十丁

出口は現橋と云。氏神は内流下  
走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。

是か生形と云。たふたを。走り  
走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。

○足割村 小坂より

生形村 走り

大いひく。走り。走り。走り。走り  
走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。

○社の森天社 走り  
走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。走り。

○中田  
いづれに...

村の○生野川○下生野  
村名不

大川  
○又まこ村○池田村  
ふ橋臣

志保村  
二十丁

○さし市村  
も後智ふと面方並ねるもの智ふ

長回村  
まこ村

○荒野  
わきの海乃の右に坐るをさバ  
二里四方の廣野あり

○後智ふ板十王寺  
まこ村

土師村  
長田の  
まこ村

○さし川  
庚子年中より  
も水あり

後智ふ板十王寺  
まこ村

さし川  
いづれに...

▲此川を流る下流に在る  
大板より海乃の國に流る

い乃の事ニ田舎又丁川  
●おんいづれに...

さし川  
まこ村

後智ふ  
まこ村

朽木土佐守殿  
五十二  
よる

河城下  
あかし  
日向守也

城之約  
まこ村

▲町中  
まこ村

さし川  
まこ村

さし川  
まこ村

丹後島の人けみこのまは

○久和市村(荒河川) 丹後

荒河村 丹後 二十丁

右 丹後文津屋 但る出石乃

右乃追分(丹後)おひく

人の丹後おひのる中階に

てるべー 〇投門

舟は(まき)あや 〇投門

立原村 丹後 一里

〇野 丹後 あり星

〇野 丹後 あり星

〇野 丹後 あり星

〇いのを川 丹後

一の宮 丹後

〇右の一の宮社 丹後

本名 丹後 〇新堂村 丹後

本村 丹後 〇加孫村 丹後

右の 丹後 〇加孫村 丹後

大 丹後 〇加孫村 丹後

源 丹後 〇加孫村 丹後

〇の 丹後 〇加孫村 丹後

〇の 丹後 〇加孫村 丹後

〇の 丹後 〇加孫村 丹後

〇の 丹後 〇加孫村 丹後



くさり 継と... 別してあり  
世丁けり。殊ハ丹波但馬のさ  
くへん小大にのる。二丁  
とちりて美談に二丁ある。又五六  
丁あり。兼に松とあり。松と  
初てある。松とあり。松とあり。  
とほやば。ある。松とあり。

久畑 栗田。 小の原小株  
とちりて五六丁

西ノがき 川あり 松あり  
又六丁 終て川あり 水橋あり

○栗尾村  
平田村 一リ

小谷 栗田 一リ

出石村より丹波の宮  
津へ有 松あり 終ては

△尾谷 小の原小株

松尾とあり 終ては

松をとりて 終ては

松をとりて 終ては

松をとりて 終ては

松をとりて 終ては

松をとりて 終ては

松をとりて 終ては

松をとりて 終ては

松をとりて 終ては

松をとりて 終ては

松をとりて 終ては

松をとりて 終ては

仙石越前守及海城より西遷

○宗鏡寺 沢庵和尚 ○西

宮 宗鏡村あり出石明神  
といふ也又此寺なり

△出石河と出たれり

川端細石を以て名に里田

此寺も七層塔と云ふ

その名にのり

出石舟問や

舟屋またり 舟田也

いしやまがそと 舟屋も

い同屋も三寺あり

舟屋の舟屋と云ふ

一 舟合を人をもつて  
舟屋あり舟屋なり

舟村 舟屋 舟屋

み奈村河原 舟屋

○足ひき 舟の舟と云ふ  
舟屋の舟屋と云ふ

豊岡 舟屋

舟屋 舟屋

舟屋下之柳町と細久保

●小田井大明神 舟屋

舟屋の舟を除去し舟屋の  
舟を舟とす舟に舟屋

●大雲山奥國寺 舟屋

舟屋 舟屋

舟屋 舟屋

舟屋 舟屋

○豊岡の湯治と陸地の急難

石丸谷川より湯治に下る

赤合を人 三十五

を艘か切 貳百八

但し又人系定之又人より上も  
是人系きし

挾箱一箱 二人系

手廻一丁 二人系

ほら一箱 二人系

やうやう箱一丁を人系

吉か。諸人の善也。風呂を  
包ふ。毎ら人なりなり

豊岡の湯治。豊岡より湯治に下る。湯治  
人は此湯治の世治り。湯治の  
正。日言てある。湯治の  
し。湯治の湯治。

ゆめがり。湯治の湯治。湯治の湯治。  
で。湯治の湯治。湯治の湯治。  
ま。湯治の湯治。

○豊岡舟回也

湯治の湯治

湯治の湯治

馬屋七左の

伏屋次郎の湯

○豊岡の湯治と再修記

右

あごごん

定湯村

砂上村

赤石

左

一日市村

二日湯

湯治の湯治

湯治の湯治

湯治の湯治

湯治の湯治

焼く。何れぞ。其石をまき。形或

へ。三角四角三角

にして。上下五つ。古来か。見と。此

を。分けて。寄。て。ぬ。く。は。又。た。必

を。を。来。て。見。ま。じ。ま。あ。妙。か。湯。の

を。定。け。て。洗。く。す。く。や。ま。た。ま。を

結の浦

深。地。ま。ま。か。ま。内。大。長。は。あ。ま

わ。ら。す。た。む。す。ふ。の。浦。に。お。り。ぬ。

る。り。ふ。生。海。の。土。に。沼。草。と。よ

ま。れ。名。不。そ

今津村

湯治

湯治の入口一丁。か。あ。な

は。ら。り。よ。て。か。あ。て。の。あ。い。ぬ。

船。家。業。地。と。い。は。れ。る。う。り。下

男。下。女。も。り。て。あ。ら。と。と。く。あ。り

系。より。湯。治。中。で。凡。三。十。又。里。才。十。丁。余

る。石。を。ま。き。け。ぬ。く。は。

あ。け。て。了。る。あ。と。う。道。に。ま。ま。

ま。く。湯。水。を。あ。ら。う。合。種。家。業。的

場。石。を。ま。き。け。ぬ。く。は。

上。山。村

日。破。村

東。日。村

湯。治。の。入。口。一。丁。か。あ。な

は。ら。り。よ。て。か。あ。て。の。あ。い。ぬ。

船。家。業。地。と。い。は。れ。る。う。り。下

男。下。女。も。り。て。あ。ら。と。と。く。あ。り

系。より。湯。治。中。で。凡。三。十。又。里。才。十。丁。余

○市土産物

柳やなぎの葉はすせん法ほうののじらぬり

ひらくはひは仕し立た上うののあめ若わ

大お中ちゆう流りゆうををねね海うみををううりりままあ

老らう節せつししららぬぬ煙えん袋ぶくろ月つき初はつ枝え

湯ゆのの死し上う申ま下げ右みぎ外ほか紙かみ墨すみ筆筆

一切小間物本ほん在于草子くさこ茶ちや数かず有あ

○貸買物

本ほん多おほくく琴こと三さん味あじ強つよ胡こ弓ゆみ天てん八はち報ほう

本ほん多おほくく琴こと三さん味あじ強つよ胡こ弓ゆみ天てん八はち報ほう

但馬湯たにまゆ山崎やまざき在あ勘かん十じゅう三さん

二二回越

大坂おおさか小こ路ち右みぎ融ゆう守しゅをを出で

三さん番ばん村むら

十二じふに村むら

村むらをを出でてて門かど者もの之の處ところ○お板いた村むら

○今いま里さと村むら○三さん津つ也や村むら○

加か藤ふじ村むら いままのの社しゃ有ありり此こゝ社しゃ祭まつり持もち

神かみ橋はし

新にい工こう門かどありあり之の處ところ

▲あ東とう三さん江え伊い丹たん江え小こ溪せき出でる

本ほん海うみ乃のるる位くらい也や乃の遠とほ也や乃の津つ也や乃の津つ也や

小こ東とう江え乃の遠とほ也や乃の津つ也や乃の津つ也や

乃云能くをし。其を乃と記

○冬知村あきちむら ○下坂船村しもさかふねむら

○上坂船村うへさかふねむら 津藤つげ 一リ

○南孫村なんそんむら 太工伊丹たごいだけ とくろ

○北陽村きたやうむら 富臣とみおみ 塚つか 一リ

村と出て大池有名池之おほいけの有名ないけ

ありと云終奉ちん ○中孫村なかそんむら

身みみ 〇姥おばが茶や ○あき

村むら 小た内こちうち 中なか ちち

小溪村こたけむら 一リ

けれし伊丹巡りのあり

新あり町長一〇兼谷村かねやむら

小村こむら 〇川面村かわめんむら 一

綿わた 〇お あり其仏の教音そのぶつのかうおん 西宮さいみや のあり

生瀬村なせむら 小こ 一リ

〇お 生瀬川なせがわ 後之文ごのぶん をさす

△右生瀬川みぎなせがわ 下丁しもちやう 前まへ 小川こがわ あり

有あり 本村ほんむら の橋はし あり

ある水みづ 生瀬川なせがわ あり

〇お 〇お 〇お 〇お

〇お 〇お 〇お 〇お

〇お 〇お 〇お 〇お

〇お 〇お 〇お 〇お

〇お 〇お 〇お 〇お

坂といふ所有  
○六のり村

名塩  
一リ

は村をて。名子紙を瀬を兼

と名塩紙足なり

東久保村  
二十丁

○獨結水  
気分目下

と。四十丁。くぐり坂を

坂と。と坂多く。体ながら

乃。平田村○

平田川  
○日下村

乃場川原  
二十丁

長酒。酒。出に川

△まうて四時茶やと云方。あ

は。播列之本。熱れ社なり。其

と。石が右なり。と田乃

○と。地。月。之。橋。今。は。と

○十四丁。と。と。田。乃。界

の。抗。有。い。お。と。田。乃。可。若

教。者。の。け。る。と。や。る。は。士。

播。列。清。水。を。と。と。入。り。系

と。よ

と。田  
乃場川原  
二十丁

九鬼長門守殿  
は城下

○と。橋。所。の。お。れ。出。に。と。と。の。社。乃

月。林あり。がさ候を。隣家かくして。社と云ふ。あややくとて。入て。踊りたゆ。後より。○川除村  
足と三指れり。あや

○大魚村(後河村)○急須村

加谷 本名村 三田 一リ

▲廣野 けねの入口かた。終り。あり。おひて。たん。を。た。ま。ら。り。

○長坂村 入口に。建立松と云。あ。の。村。産。を。た。ま。ら。り。

○四辻村 伏見松と云ふ。村

新田村 布産物 一リ

藍井町 一リ

村出て。日。出。坂。と。云。ふ。丁。の。坂。有。係。ハ。橋。本。村。境。之。

○油子村 油の

古市 一リ

足抜列分れ。往。後。海。乃。之。村。を。出。て。車。は。ば。毎。日。及。二。リ。す。ち。水。は。毎。日。お。と。す。べ。し。

川。ご。り。あり。

○石泉寺 古市の小の。寺。波。が。矢。張。い。ま。り。の。社。あり。

代村○大畑村○龍蔵寺

味間 一リ

古志村 一リ

古志村 あり

古志村 あり

古志村 あり

古志村 あり

古志村 あり

古志村 あり



△この水れ時ぞとくけ流る  
まがらあるはまおげれの難

水をおりてよしむ貝原よし

○の陣村 ○の陣村 あひの

きほえ中あまの ○大い あひの 進入と

一りまのる大いと云中村

△大いれ中れと云東出てさふた

有るおぼるか流し及へさうり家へ

とんとあが果か集ひ出てあふ

後智ふ乃今二りをりはま

○宮村 いふそひいねが武ア

進入村 あひまふ 二りよ

右市かこととれれたれ合箱の通

△丹後名不座村人の令が

坂をのりて林藪をたひり

○圓外一里 くまの 有 ○小たり

圓外か ○いち清 いさろふ

一り 一り いらいふ ○後

知ふ はまの丹田 丹後

名不丹後と云る中附あり

○薩が坂進入村 あひの

電系 のり 電十丁飯難不之流をた

令ふと云思ふありあむ同

守の城は絶頂よる橋あり

下は世下。こゝも新所也

大倉 倉庫 一リ

村の入口新所社とて、（？）

貝原 （？）

織田の城守殿の城下の町也

○福社（？） ○多田村（？）

石負村 （？）

合所多など入多く仕立

△並行の後智ふ及村の中

経ふ。小堤あり。地とありて

は。ゆる及之。此及て終横田村

此出る所凡之有右の事也。

たがうは。中のゆる及之

水上村 （？）

○櫛敷村 ○柳町

河町 （？）

出の川有 （？）

△川をりて。並行の後智ふ素也

○西豆田村

佐次 （？）

出の川有 （？）

○板谷村 ○中法次村

板谷村と名をたれ。畑中。板谷本  
板村の下。右境有直出。浄松  
大居士とあり。あそひ。地蔵とて。若  
ひふの地。是にて。是は氏名なり

若民不絶わんが。たりまら  
たりまらふと。いひつゝ

平次  
一リ

を坂村の長き川原宿にありし  
を坂村の上より下りてあり  
を水は一面向してあり

を坂村  
まらふ

○を坂村は世に傳はれ  
本に大なる丹波にあり

ありけり。傳はれ給ふ

美濃本に童くさる也

を坂村  
一リ

栗鹿大の村  
まらふ

栗鹿大の村にありし  
栗鹿大の村にありし

栗鹿大の村にありし  
栗鹿大の村にありし

栗鹿大の村にありし  
栗鹿大の村にありし

栗鹿大の村にありし  
栗鹿大の村にありし

栗鹿大の村にありし  
栗鹿大の村にありし

和佐田村○水が村

矢野瀬

栗原村○玉木村

竹田川

和回山

湯治が湯

人け和回山を出て

○中市場○土田村○

宮田村

高田

一リ八丁

○堰畑村

是か出る能

水谷

水谷

○水谷大の村

大の村ともいふ。系記に正月廿八日。奉。社。の。友。友。社。の。下。小。石。あり。是。は。お。経。の。石。と。い。ふ。番。知。人。を。と。う。け。て。ゆ。ら。ば。番。に。着。つ。た。と。い。ふ。着。は。ぬ。着。もあり。又。二。丁。と。い。ふ。山。に。は。の。村。と。て。あり。根。を。戻。し。入。れ。る。り。田。畑。を。播。き。お。く。は。と。い。ふ。こ。り。は。は。は。は。で。守。り。と。い。ふ。の。村。より。や。ぶ。勝。村。へ。お。け。た。あ。い。れ。格。別。あり。あり。○水谷小普賢寺

賢寺

持の根あり。本寺も其業跡とて。その跡の末子也

○水谷勝村○大や川

但固のりよりなり。

網場

カぶより一リ

○下ろ心村○大森川

水谷の  
○大森村 入口とた  
格舟あり  
の及之。辻を名。内。古墳あり。  
新竹田城と赤松を講。廣秀。  
を長又庚子十月は八月。之十  
之。支。逆。と。い。ふ。は。地。は。田。村。有  
小田  
廿下。

△此村に中記と。た。は。は。

豊岡石之。並。は。は。

江の宮

宮

水田

○宿南村

是か宿舎と。は。石。を。置。き。常。と。い。ふ。

山流川を足下。○法念村

○ 流中川 橋多 (一) 若中村

○ 雲田村 雲田 江原二

江原 江の原

○ 日蓮村 ○ 旗後村

○ 土居村 土居

○ 小川 小川

○ 名生村 名生

い里と改わり山よを居里

納屋 てんより 二十二丁

い不同海あり大坂より

の荷也電をとり自由あり

湯治、四里のるふより

江戸、むらとる

向 舟 舟 舟

赤坂や安 松や文次郎

松 松 或百八十文

又人のり 又人三十一人分

のり合 又十六文

屋七ツ附より二人取より

又人のり 又百六十文

のり合 又百六十文

武家方及具一人取

一 結 結 一人分

一 換 換 二人分

一 のり 抽 一丁 二人分

一つら一荷 二人前  
一宮よの二丁 一人前

右ふか旗人の着るもの  
ちねづみいねあつてす

○佐野 〇九日

豊岡 こよとろ なやふり  
一リ

町中一 出所と云われ指

指に茶や者。出る毎る舟

舟の。休むは。是より。湯

をぬる。涼ぶれた中記を出た。

湯清色是合こり 〇大坂

湯清をたはねる丸丸り六丁余

攝摩より

大坂梅田からたね 〇大仁村

〇野里村 入口は川 〇佃村

ねまて 〇厄己の渡 厄が橋入

三又 おのちの渡 おのちの渡

厄崎 大坂からいへ  
より 〇り

松更遠江守殿 四万

清城下之他大坂ごこがかの

合分有 一人は 〇大物

浦 後田 〇大物の橋 町中

堀江の里 所が 〇素ね

文の屋端はいこ有は日

石塔。之湖の溪。有○  
川 ● 早山 ● 難波の里

八丁 ● 猪名川 ● 津

浦の津 ● 新田村 ● 有 ● 駐

武庫川 ● 尾崎 ● 有

西宮 ● 尾崎 ● 有

西宮大社 ● 我 ● 有

廣田社 ● 三丁 ● 有

宿川 ● 宿 ● 有

阿保 ● 宿川 ● 有

親王の御所 ● あり ● 村 ● 有

合は ● あり ● 有

湯元 ● 茅 ● 有

夜塚 ● あり ● 有

猿丸 ● 左 ● 有

茅 ● あり ● 有

河田 ● あり ● 有

河田 ● あり ● 有

河田 ● あり ● 有

河田 ● あり ● 有

河田 ● あり ● 有

河田 ● あり ● 有

河田 ● あり ● 有

住吉神社 林ありまれば有至ね  
の中よりこのねあり

○石や川 津波村のどろ川 地村

と川の 河原町 東村 三浦

○寺内村 求塚 村二を

月村一ツハ 摩耶山切利天

上寺 寺坂十八丁 赤根 城下の

まに有 寺内村 布川の流 男陸

川の 船浦 船津神社海老の

二ツリ

○生田門 布川より山門居七

○生田の森 船津梅屋

一ツの森 城ヶ口 梅原二条の

生田 神ノ村 俵川

宝勝寺 梅正

楠正成の

海乃の細中 あり 緑の美

大長椅子

▲有馬道 河原町分水

とこてより 新唐戸株

○漆川の大川 小宰相

れ島の塔 京材よりあり

兵庫 昭のふた

尾崎はれして 船昌は流

●経の流 船昌は流

●船昌は流



兵庫の所。東海に三ノ有。海  
土宗。東遠寺と云。法堂との  
章刻。法堂云。去王。●法堂  
九寺の像あり

塚。ささのるを八六。弘安九  
年とあり。十二寺の塚あり。  
つとて寺の。●真光寺。あり  
出にあり。●真光寺。あり

あり。元祖一寺。●真光寺。あり  
上人の家あり。●真光寺。あり  
法堂塚あり。あり。●和田の法堂  
塚の経の塚あり。●さかせの法堂

▲法堂塚あり。二丁後  
あり。富村といふ。左有。丈夫

庭。約十畝。林。野田村。約  
夫上川を。法堂。一。出。さか

海。約十畝。約十畝。約十畝  
氏。二。系。れ。松。木。度。塚。法。の

進。り。を。ご。ん。さ。け。る。は

●和田の神。とま。ん。ひ。う。を

○後。嚴。寺。あり。西。の。所。を。ま。よ

真。基。後。礎。礎。寺。の。山。一。有。あり。を

居。上。の。寺。と。云。有。○ま。い。後。寺

は。和。岐。王。女。の。宗。を。奉。り

●あ。い。ひ。け。物。東

此。村。あり。左。●通。堂。塚。左

家。の。ま。よ。ん。●通。堂。塚。左

八。十。丁。半。西。の。石。の。塚。●木。村。源

他。の。ま。よ。の。な。り。●木。村。源  
吾。重。章。の。塚。を。法。堂。塚。の。水  
是。の。所。を。ま。よ。●木。田。村。左  
死。を。し。ん。ま。ん。●木。田。村。左  
計。一。丁。半。乃。願。あり。の。名  
ち。に。ま。の。か。ま。の。は。う。あり

● 飛松 板倉村に有る  
家の名を本と

月見れ松 板倉の旧松也  
その材の山の中

● 磯列松 板倉の山の中  
あり

● 杉平配松 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

須十 板倉の山の中  
あり

琵琶ヶ池 ○おんぢヶ池

○釣ヶ池 村あり

○仲哀天皇陵 新

○鳥添 ○山田村

大倉谷 一リあり

●綱敷天神 大倉谷

●人丸社 松平日向

●忠度塚 みわり

○明石

松平丹後守殿 大倉谷下

○大沼川 ○大沼新町 社

●大いさ かき

○解雲ヶ坂

村 ○小久保村 ○栗田村

大久保村 大倉谷

●野中れ清水 一リあり

●神出山 右に清水

○三軒家

長池村 東西

△是ヶ海辺 出てる砂

出る乃有 初森村に射ヶ松と云ふ名に在り

ぬ名 ○清水村 是より本方

○原南里 是より本方

新田 後里村 ○木山村

○高畑村

西谷村 其いけのりあり

○新在家村 ○野口村

教信寺と云ふ有。教信上人の御子に傳あり。跡中より西谷

○坂本村 おりの信水有。又おの坂本に傳あり

○比村 おたのて刀田尾上

○石室 おの坂本に傳あり

街 おの三里と云ふ名に在り

此の記 おの坂本に傳あり

○刀田 おの鶴林寺

寺あり百十七石有。天長宗を傳

徳右子の建立より二百餘年及

そこの積あり。尾上社

長田村よりあり。尾上松有。日

者池田村よりあり。おの坂本のり

おの坂本のり。尾上社

尾上社

尾上社

○高砂の社 社あり十石九

相生の松有。但古の松の天心  
の比。毛利氏此松小出某此の  
に。此の松の今の松の本多  
に。此の松の極さやある

●地蔵山十輪寺  
末寺。寺領入る。此松上人水を  
見の松敷。此松をまゝとて人  
に。此の松の之。●吉井村  
美地あり

●荒井川 海 ●魚橋村

●石室殿 魚橋村七十八丁  
又。此の松の極さやある

●曾根天神 社  
此松の極さやある

●時光  
此松の極さやある

●阿弥陀が宿  
西の松の村あり

●加吉川宿 寺あり 西の松  
此松の極さやある

●七騎塚 山の  
此松の極さやある

●津丸村  
此松の極さやある

●後井村 ●佐々木  
此松の極さやある

●御着  
此松の極さやある

●眼法、出でた。虫、屋敷、出

但乃乃三重を以て其に格を

給○小村并小村合○為坂たす

為坂合○大王一リ大妻

長群有休不○過川二リ過

川合○海江七下海江合○川辺

又十下川辺合○屋形又十下

●牛堂合○圓分寺

ありま言宗寺合○三十二寺の

●合紙村○胡尾合

○市務及村○市川

●紙右村○申府村

●水合

瀧井雅樂以

●社

住家九村。社儀一形。亦一年同。

七月十二日。十月十日。○龜合本

德寺

●饒万の里

里村

△野里合

仍ハ●増位合

二百八十五天合

社

●白幣合

のうらゝあり。書寫山

西園寺七女。於八百廿

教寺。三石天台宗。本寺。此寺

將鏡。性空上人。寢

基。地。ぬ。ふ。ニ。リ。ま。な。る。

右。四。方。不。あ。り。新。町

出。る。た。り。入。六。里。と。也

○破塚村。いぢぢ

仁豊孫。一リ

○大畑村。いふのより

溝口村。ニリ

新町。みそ

新町。みそ

甘地。あぢ

○近平村。千原村

○後渡村。あぢ

屋形。ニリ

は。者。より。乃。を。及。び。也

入。口。川。あり。と。も。

○大内口村。いぢ

○後本。いぢ

栗加貝村。一リ

栗加貝村。一リ

○戸田川 ふるま

いふよ上は。ほそ寺とて。石有  
寺あり。元寺教寺いふ。大  
寺也。○よしのの 道の  
あり。是をよし  
よしのとて。是也。

一本板 粟かきより  
三丁上

○大山村 三村 ○ゆり湯

退上 一本板  
一丁上

○進上作とて。小坂あり。

立心あり ○まろ村 まろ

次上川あり。まろ橋あり。まろ  
と大栗木の林乃。宮あり。まろ

まろ ひい上  
一丁

○銀と乃。入江乃里。

いふ川あり。まろ橋あり。

○まろ 小坂之  
まろ

○まろ まろ

上津村 高は  
三丁

○岩井岩 あわりて  
まろ

十八丁 まろ

村 まろ

山口村 まろ

○新井村 ○帯刀村

○桑市村 ○お まろ

竹田 まろ

いふ まろ



又竹田様とて。藤末  
かまんと出○牧田村

和回山

△こめて三回越と。行

合夥り。古きより。こま

岡もその。屋中附り。近

田越方あり。素一。ゆへ

さしあし。ましと出と

えり田

一り八丁

本久文

一り田分

徳場

一り

水田

一り

江の文

一り田分

江の文

一り田分

江の文

一り田分

納屋

二十丁

豊岡

一り田分

湯治

一り田分

大田の湯治も。下

一里半八丁余あり

以上

清土産物

柳のうらたすははあどか  
葉のうらたすははあどか  
わきのうらたすははあどか  
海苔のうらたすははあどか  
湯のうらたすははあどか  
ちまのうらたすははあどか  
本物のうらたすははあどか

心しをの

三味線太さう尺八櫻  
弓のうらたすははあどか  
討物 清のうらたすははあどか  
懐紙のうらたすははあどか  
川退番中のうらたすははあどか  
うらたすははあどか  
うらたすははあどか  
うらたすははあどか  
うらたすははあどか  
うらたすははあどか

後智山が丹後上湯

清を中記

後智山 是より海守まで  
三里ありあり切  
接ふ。六石又後。兼合も。空り  
る。町の中をのうらたすははあどか

荒河村 名は 後智山  
凡五丁

▲村とがまより 太文津に  
た出る

○うらたすははあどか

あうそ。高難。○やぎ川

牧川のあうそ。○是を村

天津 宮るー 荒川

●鬼が城 天はか一りまき  
あうそ。あうそ。あうそ。

○さぶのき川○境川

丹

此川丹波丹後  
のさくひなり

公店村

一里

後知ふふし紅毛あり。何れ  
によりてか後知ふふし。みあり  
さくまんとる

河守

公店  
廿五丁

○外宮

河守の四之河守  
み六丁有。宮あり

雄畧正一年十月。神勅あり  
て。おま年七月七日。今の伊勢  
ふろくを。あふ。○川田村  
本いせしつこ

○二股村

内宮

河守  
一里

村の川守。文川と云。  
橋紙字活橋といふ。本社の

茅畑あり。今のいせれ

下。鳥居の服より路

親方も。境内よき。理枝。

日本控。四本けき。相生

控。武本村。猿とら。孫ら

の志んこ橋。初めうごら。

雲根村。三本枝。杯有

▲社より。町へ。成りど。

社をた入り。後が。獄

を。たり。よんで。ま。難。を

ゆり。み。六丁。み。す。て。天

の。名。を。よ。つ。ら。あ。ふ。社



上宮津村

ぐんどうか  
廿八丁

是より宮津まで並木松原  
之木のふれふ。今後くふふふ  
遊べぬわらう

宮津

上宮津か  
一リ

松平忠房身殿七万石

御城下之

ふらふらと。松平忠房  
の地をいふ。傍るを

多く織出ん。○宮津の林

大己老おの  
少老おの

▲宮津の河原所と

ゆふふよりふふとゆる

にふふとよりてふふ

口里くちあり。ふらんかり切。言  
ふか。三百ふふ。空りるし。

ありふふふ人ふふ。ふふふ  
の切ふふふふ。ふふりりり

ふふふふふふふふ人ふ

若津わかつとふふ有。頂津とづ城

とふ。大の重乃。是丁ま程

西より。た、陸りくあり。思おも津

赤文津あかふみか。若津わかつとふ。名

ふふふふふ。ふふふふあり。

是人このふふふ位ゐか。は十ふ加ふ。

け頂津とづ城とふふ人ふふあり

○大乃おの重むね海うみとふふ

あり。波なみ津つ村むらの。戒かい若わ存ぞんと。切き戸こ

の智ち思しちちに。知ちふふ。大のふふふ  
ふと云。林はやし及およ。○雞塚けいづか金かね乃の  
春の碑いし文ぶん者もの。雞塚けいづか金かね乃の

榎山と云ふ。松三十六本と極  
より内を本を。とさう松と  
云ふ。今、  
○身投石 志産  
云々

○溪の浦 行枝松方。方  
投石の邊まで  
の邊  
○行枝の松 東きふ  
枝うん  
と云

と云  
○龍燈の松 松の頂上  
にあり  
なり  
○切腹文殊 たれとあり  
とあり

天橋山。智度寺。妙心寺流。寺  
殿又十石。一層階。ハ本なる銅堂  
お百銅。縁起。粉石。銅。之。た。この  
番。燈。禪。の。鐘。は。ハ。餅。あ。ふ。あり。

○女史 本を南白。七石。口面  
松 寺内浴堂の  
松。またあり

門前右の松。ふ。あ。け。る。龍。燈。あり。  
正月廿四日。六月廿四日。の。今。云。云。  
より。龍。燈。  
○夕日れ浦 文殊  
とあり

の。あ。れ。入。れ。と。云。方。瑞。枯。木。の  
浦。三角塔。聖。徳。皇。の。之。ざ。ん。で。  
ざ。ん。の。雲。塔。

○天の橋立 此の  
山あり  
より。辰。己。向。ひ。て。出。龍。燈。の。松。と。一  
里。あり。と。云。測。橋。と。あり。と。是。隔  
く。文。殊。寺。と。も。あり。と。云。丁。身。と。云。と  
九。世。後。代。切。腹。と。も。云。後。一。六。云。つ。之。

○東。二。定。津。の。塚。下。壘。の。方。は。海  
岸。寺。推。橋。思。橋。水。山。崎。の。林  
乾。の。方。磐。尾。伊。孫。の。浦。西。に。あ。り。  
必。分。寺。八。幡。南。又。大。内。須。津。作。  
白。糸。の。漢。る。と。云。又。云。る。日。本。三

系。の。斗。一。と。云。ふ。と。い。へ。り。又。云。さ  
て。あ。れ。の。坂。乃。常。ご。ろ。と。云。別。ら。終。系  
之。今。系。の。系。は。一。系。と。云。ふ。と。云。ふ。と。云。ふ。  
と。云。松。の。系。も。と。云。ふ。と。云。ふ。と。云。ふ。  
と。云。天。の。系。と。云。ふ。と。云。ふ。と。云。ふ。

○橋  
立。の。林 八。大。法。王。大。川。大。明。林。天  
橋。大。明。林。と。あり。依。法。の  
多。せ。松。也。

測。橋。あり  
△切り切。海。の。切。是。是。より

あがり。ふき松のまきかき。

まき江尻、森を築。一の宮

あねあり。船よのりぐし。並

本陣向の石乃らあきぐし

○江尻村（名有。橋立は別條を揚林港といふ）江尻といふ

と。○一の宮（江尻に於て）

の林といふ。是ぬおの坂口之右衛門の旧宅也。對面井あり。いふ不有。社家より。久ざたは後とせ

▲江尻より。夫氣よくハ浦也

まきぐし。黒松生た。山海の外

ありたり。伊保の浦。浦崎社

竹野郡細神村あり。後選のち。めてふふふふふふふふの江尻。勝がまをとりしやう。

官文殊（い）の林（琴）琴（琴）

漢（漢）を漢（漢）を漢（漢）ととと

漢（漢）の漢（漢）。出（出）久（久）久（久）休（休）命（命）陽（陽）徳（徳）

終（終）。一（一）点（点）晴（晴）れととととととと

とととととと。病（病）抱（抱）の持（持）終（終）とと

細川出（出）命（命）の命（命）三（三）相（相）あが

琴（琴）の備（備）とととととととととととと

●施（施）名（名）の成（成）相（相）寺（寺） （本寺を親善に）

此はいふれおちまは草剣江尻。坂十ヶ下向ハ浦尻。下向ハ浦尻。

●園（園）分（分）古（古）の八（八）幡（幡）宮（宮） （山）

に有江尻かすた。●け二ヶ坪の切。黒松まきあり。

とととととと。とととととと。とととととと。

岩淵

文津の須賀城の二里  
名木と云うて名木あり

震より三宮津へはあり

質文津と云う格なり

甚然虫あり虫切下

○弓月本村 須津越のあり  
本村の内津の麓

なりけ味をういふ難あり味より  
小の白の橋立の系之か加白の

あり松尾の丹後由良の城  
のこゝで、まゝり。まゝりあり。

三重 宿屋 三丁

○三坂村

大野村 三丁

▲大野平四丁出てた

約ハ京極備後守殿ハ

城下署ハ人湯徳ハた

○若狭寺村

長岡村 大野

○新次村

二箇村 長岡

けをさう綿細と織出

○又月村

二箇 二丁

○比治山味

佐野 味

孫中村 佐野

橋爪村 孫中



○堺村○友重村○吳

鴨山本紀寺 とら谷村のむら

有。浄土宗。新基の宮基。古本。河原。池の果。弘。あり

久員 一リ

河代官屋跡有。名物

小海松を賣。○久員

三系。許とも云。所より十町。あり。有。八海。之。後。里。志。経。系。丹。後。但。る。玉。境。る。り。江。鹿。より。海。より。ま。れ。わ。に。き。こ。る。

○飯谷味 少の飯。あり。長。尾。氏。の。味。治。あり。

○飯谷村 久員。か。是。を。体。不。る。り。

樂く浦 富。る。り。久員。か。二リ。よ。

是。か。湯。治。と。い。ふ。の。り。系。後。一。飯。谷。か。一。人。新。指。二。文。系。の。浦。か。

括。久。湯。治。の。の。浦。を。十一。久。飯。谷。を。十三。文。之。

湯治 系。の。浦。か。す。た。る。

後智。山。か。湯。治。より。て

乃。法。凡。二。十二。里。半。二。丁。余

但。官。津。か。名。所。也。り。四。リ。加。の。り。あり。

但馬 本弘 湯。治。之。町。崎。屋。劫。劫。

系。古。飯。谷。の。新。基。物。法。合。所。

但馬湯治 魚。屋。八。第。名。所。

文化三寅五月改之。

大坂より一丁目

書林 藤屋弥兵衛梓

